



# 海洋システム科通信 2月号

## 祈りと教訓

(海の安全祈念日)



オアフ島ホノルルにある実習船愛媛丸の慰霊碑



生徒と教員合わせて  
 9名が亡くなった

実習船に  
 浮上してきた潜水艦が衝突

20年前、海上を走る水産高校の  
 実習船に、浮上してきたアメリカの潜水艦が衝突した。事故があった2  
 月10日、亡くなった生徒や先生に追悼の意を示すとともに、この事故  
 を日々の実習を安全に行うための教訓として心に刻むため、海洋シ  
 ステム科全員で黙とうを捧げた。



## “働くとは何か？”

(インターンシップ(職場体験))



将来の進路を見据えて、2年生が地元の企業さんでイン  
 ターンシップをさせて頂いた！この体験を通じて、“働くとは  
 何か？”触れて、感じて、考えた！

## 先生の独り言 vol.11

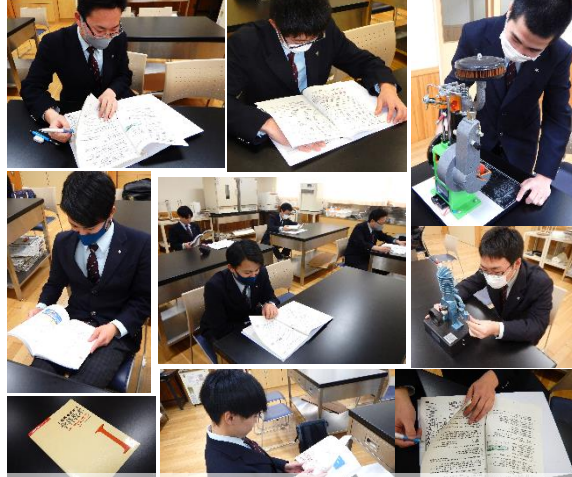
### 「下等生物などいない」

“下等生物”。私が嫌いな言葉の一つである。テレビや新聞、  
 あるいは教科書でも目にすることがある。その言葉が使われた生き  
 物が見下されているようで、とても不快に感じるのだ。今回は、海で  
 最も下等な動物と言われる海綿動物を紹介しながら、この言葉に  
 平手打ちを食らわせてやりたい。

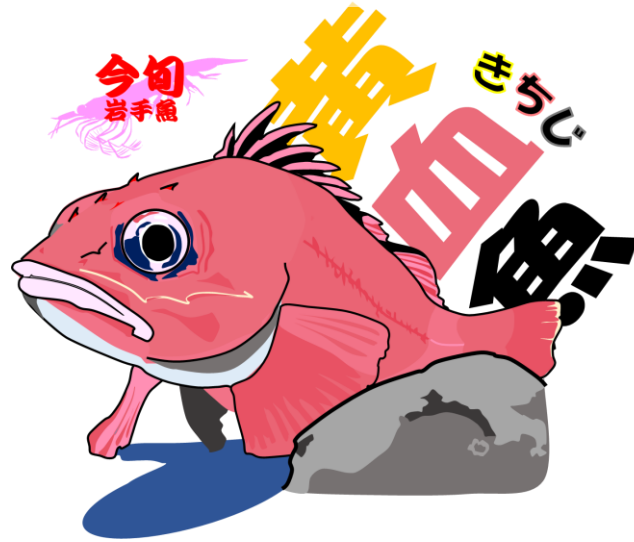
海綿動物とは、アメリカの人気キャラクター、スポンジボブのモデル  
 となった水生生物である。海綿動物はなぜ“下等動物”と言われ  
 るのか？これは海綿動物がとても単純で原始的な体をしているから  
 だ。背骨を持たず、体を動かすための筋肉や神経もない。そして、  
 効率よく呼吸を行うための心臓や肺もない。このため、高等と言わ  
 れる魚類や哺乳類のように、早く動くことも獲物を捕らえることもでき  
 ない。海綿動物は海底や構造物にくっついて、小さな水流を起こし  
 て集めた有機物を食べながら、ひっそりと暮らしているのだ。しかし、  
 海綿動物がこれら動物に比べて劣っているわけではない。例えば、  
 体がバラバラになっても元に戻る高い再生力がある。生きていく  
 ために必要なエネルギーの消費が少なく、1500年も生きられる。

## 最後にして、最大の試練

(二・三級小型船舶操縦士学科試験)



海洋科学コースの3年生が、小型船舶操縦士  
 の免許取得に向けて、学科試験に挑んだ！2年  
 生の時から学んできた全てをぶつける、最後  
 にして、最大の試練だった！！



魚類や哺乳類の体では生み出すことができない、優れた抗菌活性  
 物質を作ることができる。ちなみに、この物質は、抗がん剤や抗エイ  
 ズウイルス剤として、私たちの医療に大きく貢献している。

どのような生き物であっても、体の構造、生理機能、能力、生態系  
 での地位や役割の中の一つに注目すれば、他の生物と比べて  
 劣っているところがあるかもしれない。しかし、同時に、他の生き物  
 に負けない優れたところが必ずあるのである。だからこそ、いかなる  
 生物にも優劣などなく、“下等生物”など存在するはずがないのだ。

1500年  
**海綿**  
 超再生 医療貢献

三陸の  
 海綿動物

ナミノソカイメン  
 くらサネカイメン  
 タイタイソカイメン

下等？上等！  
**動物**